

H30 都立府中東高校 BOXING部

●第17回 全日本女子ボクシング選手権大会 結果報告

星野千梨菜（3年） ジュニア女子 バンタム級 祝！準優勝（2年連続）

会 場：長崎県立総合体育館 アリーかぶとがに
日 程：平成 30年 12月 20日～ 24日

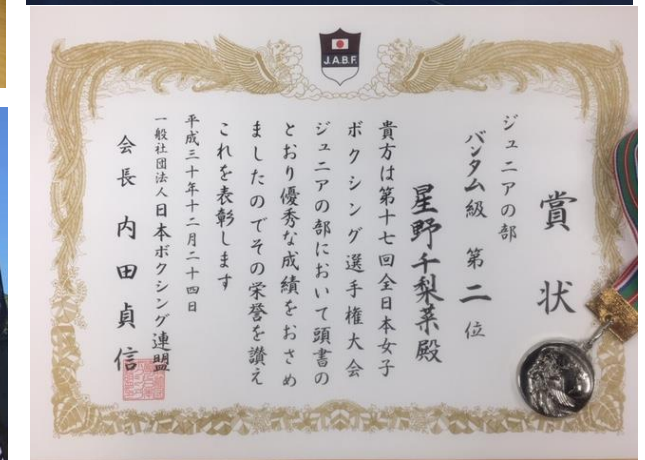
1回戦 対 大森若葉（岩手県水沢工業高校）RSC勝 1R 1分17秒
2回戦 対 井上 歩（熊本県熊本農業高校）WP勝 5-0
準決勝 対 若江波華（愛媛県松山商業高校）WP勝 3-2
決 勝 対 古賀舞琴（佐賀県立高志館高校）WP負 0-5

千梨菜の今回の全日本女子の目標は優勝。日々、課された練習を全力でこなし、遠征に行き、男子選手ともスパ一をし、日々の練習で課題を持ち、考え工夫して練習に取り組み、自分のボクシングを作り上げてきました。

最大の長所である左ストレートを活かして自分で作り上げたボクシングを、勝ち上がるにつれて強くなる相手に対し、臆することなくリングで発揮、初戦をRSCで、2回戦を5-0のポイントで危なげなく勝利しました。準決勝では昨年の千梨菜では打ち負けていたかもしれない技術のある若江選手を相手に、打ち負けず勝利を勝ち取りました。考えて練習した成果が見られた試合でした。決勝では2R、3R と距離をとり、出入りをして左ストレートを当てる自分のボクシングを展開しました。3Rにはスピードも攻撃も増し、良いボクシングを見せましたが、前に出る古賀選手にポイントがつき、敗退となりました。

千梨菜は全試合を通じて素晴らしいボクシングをリングで表現しました。全試合、前日に打ち合わせた通りに試合を展開、またラウンド間のインターバルでは私の出す指示に対し、しっかりと目を見て返事をし、力強い表情でうなずき、それすべてをリングの上で実行しました。特に決勝戦最終ラウンドは今までやってきたこと、考えてきたこと、私に言われたこと、すべてをリングの上で出し、感動すら覚える試合でした。決勝戦、敗れはしましたが、指示の通りにボクシングを展開した千梨菜には敗戦の責任はなく、負ける指示を出した私にその責任がある敗戦でした。

また今大会の優勝候補が決勝戦を前に何人も敗退していく中、同じ優勝候補と評された千梨菜は、確実に決勝まで勝ち上がり、安定した実力とメンタルの強さを見せてくれました。勝たせたい我々指導者を安心させてくれる心強さ、力強さを感じた大会でした。優勝こそ逃しましたが、本校でキャリアをスタートし、2年連続の決勝進出、準優勝！！千梨菜の努力の成果です。今までお世話になった先生方、千梨菜を応援して下さいました皆様、応援ありがとうございました。



星野佳亜奈（1年）

会 場：長崎県立総合体育館 アリーかぶとがに
日 程：平成 30年 12月 20日～ 24日

2回戦 対 木村萌那（岐阜県岐阜工業高校）RSC負 3R 0分39秒
(2回戦敗退、組み合わせ上、ベスト8となりました。)

さて、もう一人本校から出場した1年生の星野佳亜奈（千梨菜とは姉妹ではありません）。千梨菜に引っ張られ日々の練習を重ねてまいりました。その練習の成果は少なからず発揮できたかと思えます。関東大会では3年生相手に1Rで負けてしまいましたが、今回の相手は前評判が高く、今大会優勝した木村萌那選手（2年）。有効なポイント数、試合の流れは木村選手にありましたが、右ストレートが木村選手をとらえるなど、ポイントとなるパンチも見られました。またセカンドが出した指示にも対応し、相手のパンチを外してパンチを当てるなど、成長も見られました。

結果は3RRSC負けでしたが、前に出て攻めることができたこと、打った後動いて次の攻撃が見られたこと、セカンドの指示に対応したこと、など成長が見られる試合で今後に期待ができます。

まだまだ1年生。でももうすぐ2年生。焦らず、時間を無駄にしないように練習に取り組んでくれると思います。これからも応援をお願いいたします。